

報道機関各位

## 平成 29 年酒田港の取扱貨物量について

～国際コンテナ貨物量が 4 年連続で過去最高を更新～

### 概 要

酒田港の平成 29 年取扱貨物量は、外貿貨物（輸出入）が 2,409,185 トン（前年比+1.0%）、内貿貨物（移出入<sup>※1</sup>）が 1,147,525 トン（前年比+3.7%）、全貨物量が 3,556,710 トン（前年比+1.9%）となり、ほぼ前年並みであった。

国際コンテナ貨物量は、官民一体となったポートセールスの展開、花王株式会社酒田工場の生産拡大などにより、**輸出が 17,853TEU<sup>※2</sup>（前年比+25.1%）、輸入が 10,512TEU（前年比+12.0%）、輸出入合計が 28,365TEU（前年比+19.9%）**となり、**4 年連続で過去最高を更新した。**

平成 29 年取扱全貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料－ 1

平成 29 年国際コンテナ貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料－ 2

平成 29 年リサイクル貨物量<sup>※3</sup>の概要

- ・・・別紙参考資料－ 3



※1 「移出」：貨物を国内の他の地域へ送り出すこと。「移入」：貨物を国内の他の地域から移し入れること。

※2 「TEU」：20 フィートコンテナ換算のコンテナ取扱量の単位。40 フィートコンテナ 1 個は 2TEU。

※3 平成 15 年に酒田港は、国土交通省から、生産や消費活動で排出されたものの輸送の拠点となる総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の指定を受けた。

#### 【問合せ先】

県土整備部 港湾事務所 港湾振興専門員 西塔晋司 TEL：0234-26-5634

県土整備部 空港港湾課 課長 補佐 渡部 靖 TEL：023-630-2447

観光文化スポーツ部経済交流課 課長 補佐 安藤詠子 TEL：023-630-2355（コンテナ関係）

報道監 県土整備部次長 後藤紀夫、観光文化スポーツ部次長 松田明子

## 平成 29 年取扱全貨物量の概要

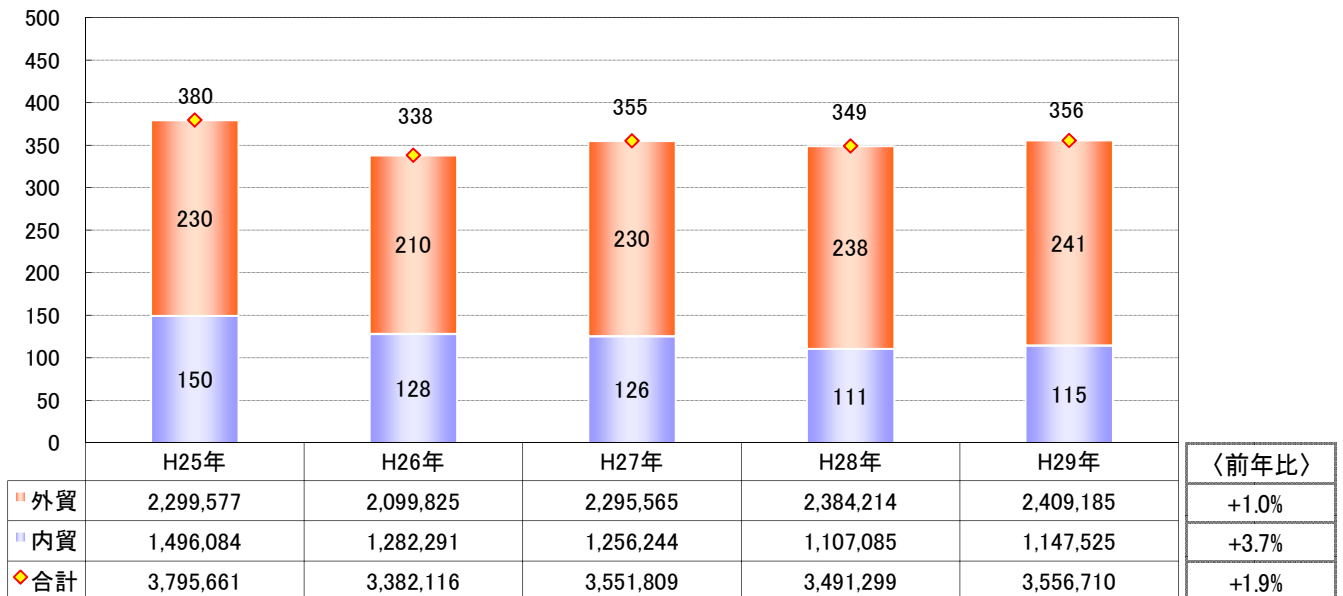
取扱全貨物量については、グラフ 1 のとおり、外貿貨物が 2,409,185 トン(前年比+1.0%)、内貿貨物が 1,147,525 トン(前年比+3.7%)、合計が 3,556,710 トン(前年比+1.9%)となった。

上位 5 品種については、表 1 のとおり、「石油製品」、「その他日用品」が増加したが、「石炭」、「窯業品」、「石材」は減少した。

「石炭」が全体の 51.9%を占めており、また、上位 5 品種で酒田港全貨物量の 80.1%を占めている。

### グラフ 1 過去 5 年間の全貨物量の推移

(単位:万トン)



(単位:トン)

### 表 1 主要品種別の貨物量の推移

(単位:トン)

品 種	H25	H26	H27	H28	H29	割合	前年比 H29/H28
石炭	1,983,479	1,748,283	1,825,000	1,891,624	1,847,433	51.9%	-2.3%
石油製品	364,860	356,081	351,067	343,635	382,960	10.8%	+11.4%
窯業品	330,379	303,770	320,017	295,430	283,956	8.0%	-3.9%
石材	376,999	236,205	315,120	238,747	186,201	5.2%	-22.0%
その他日用品	489	41,476	95,213	113,719	149,251	4.2%	+31.2%
その他	739,455	696,301	645,392	608,144	706,909	19.9%	+16.2%
合計	3,795,661	3,382,116	3,551,809	3,491,299	3,556,710	100.0%	+1.9%

## 平成 29 年国際コンテナ貨物量の概要

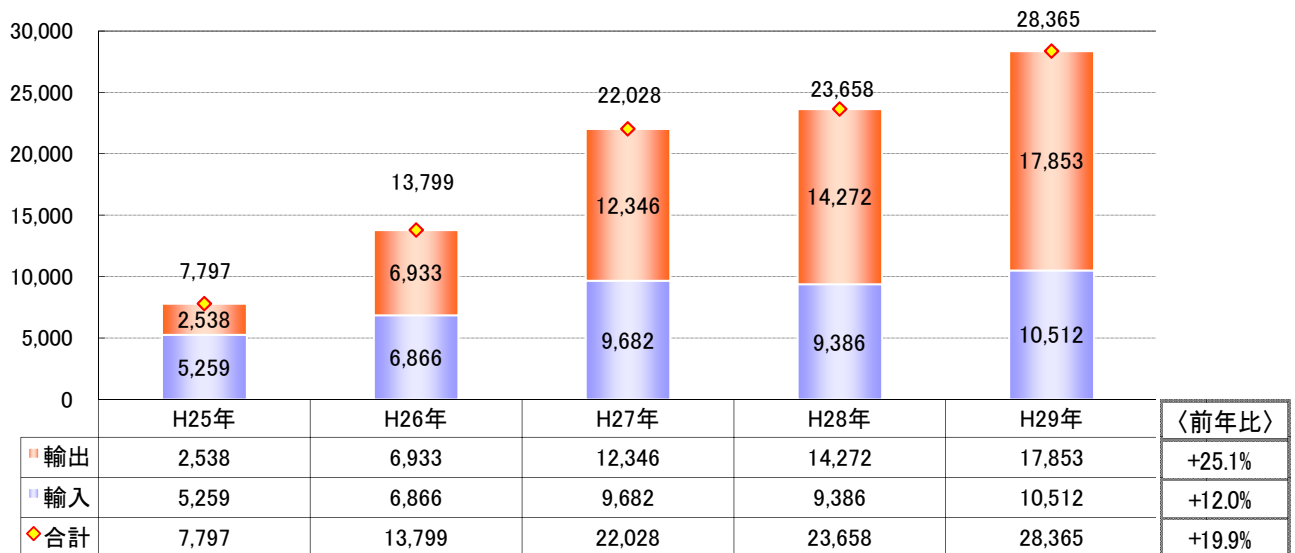
国際コンテナ貨物量については、グラフ 2 のとおり、輸出が 17,853TEU（前年比+25.1%）、輸入が 10,512TEU（前年比+12.0%）、輸出入合計が 28,365TEU（前年比+19.9%）となり、4年連続で過去最高を更新した。

品種別では、表 2 のとおり、輸出では「その他日用品」、「その他製造工業品」、「自動車部品」が増加し、輸入では「その他繊維工業品」、「紙・パルプ」、「製造食品」、「豆類」が増加した。

官民一体となったポートセールスの展開、花王株式会社酒田工場の生産拡大などにより貨物量が増加しており、酒田港においては、コンテナ管理上屋の整備やコンテナクレーンの更新など港湾機能の強化に努めている。

### グラフ 2 過去 5 年間の国際コンテナ貨物量の推移

(単位: TEU)



### 表 2 主要品種別の国際コンテナ貨物量の推移

(単位: TEU)

品 種	輸 出						品 種	輸 入					
	H25	H26	H27	H28	H29	前年比 H29/H28		H25	H26	H27	H28	H29	前年比 H29/H28
その他日用品	38	4,134	9,489	11,349	14,899	+31.3%	その他繊維工業品	6	532	1,968	1,657	1,900	+14.7%
再利用資材	1,522	1,782	1,563	1,390	1,324	-4.7%	紙・パルプ	3	519	1,248	1,186	1,592	+34.2%
その他製造工業品	35	102	191	195	251	+28.7%	製造食品	1,022	1,094	1,161	957	1,235	+29.1%
自動車部品	253	275	198	178	225	+26.4%	木製品	414	599	662	941	844	-10.3%
製造食品	53	107	150	233	222	-4.7%	豆類	484	471	292	521	584	+12.1%
その他	637	533	755	927	932	+0.5%	その他	3,330	3,651	4,350	4,124	4,357	+5.6%
合 計	2,538	6,933	12,346	14,272	17,853	+25.1%	合 計	5,259	6,866	9,682	9,386	10,512	+12.0%

※四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものが、合計と一致しない場合がある。

## 平成 29 年リサイクル貨物量の概要

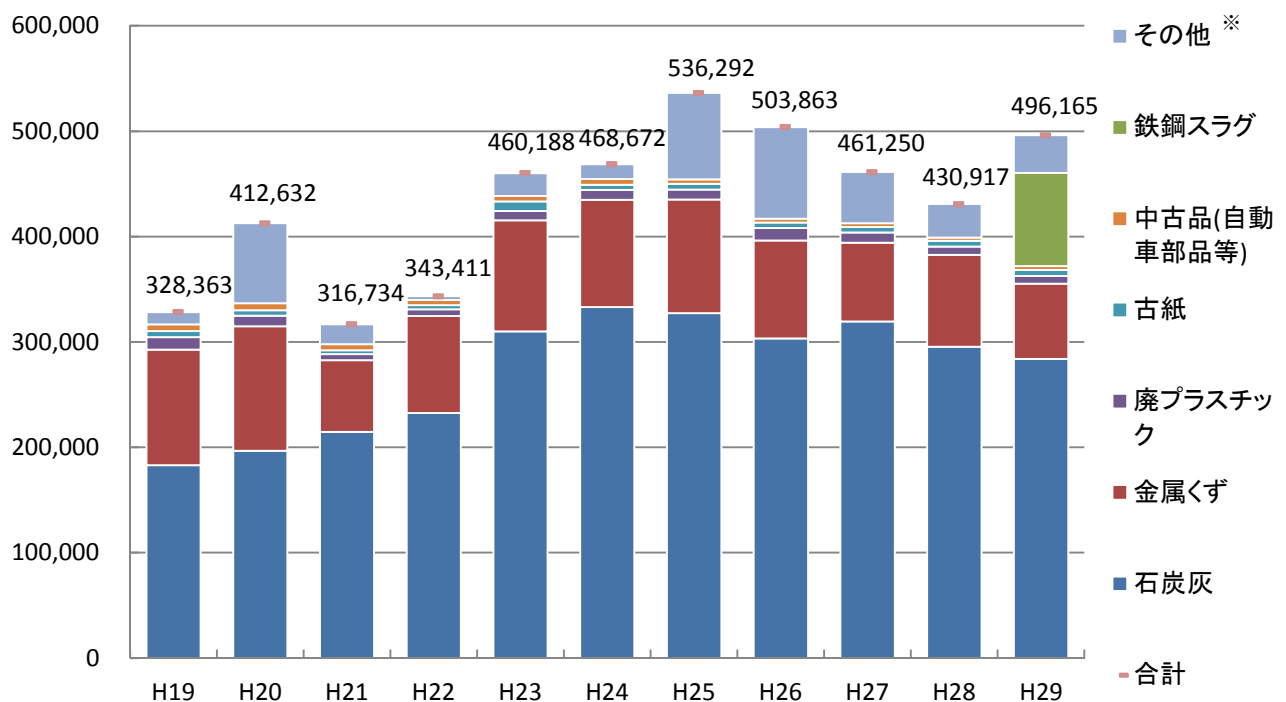
リサイクル貨物量については、グラフ 3 のとおり、合計で 496,165 トン（前年比+15.1%）であった。

品目別では、表 3 のとおり、「古紙」、「中古品（自動車関係）」が増加したが、「石炭灰」、「金属くず」、「廃プラスチック」が減少した。また、一時的なものとして「鉄鋼スラグ」の取扱いがあり、リサイクル貨物量の増加に寄与した。

リサイクルポートに指定された平成 15 年の 196,821 トンと比較すると約 2.5 倍となっている。

### グラフ 3 過去 11 年間のリサイクル貨物量の推移

(単位:トン)



### 表 3 主要品目別のリサイクル貨物量の推移

(単位:トン)

主要品目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	前年比 H29/H28
石炭灰	183,101	196,712	214,764	232,583	310,031	333,158	327,295	303,490	319,513	295,305	283,834	-3.9%
金属くず	109,705	118,133	67,980	92,110	105,279	101,647	107,852	92,709	74,657	87,188	71,360	-18.2%
廃プラスチック	11,680	10,000	5,620	6,440	8,820	9,520	9,300	11,876	9,658	8,180	7,500	-8.3%
古紙	5,820	5,340	3,720	3,960	9,260	4,918	5,620	5,340	5,360	5,200	5,580	+7.3%
中古品(自動車部品等)	6,500	6,600	5,872	4,558	5,248	5,456	4,166	3,636	3,420	3,142	3,601	+14.6%
鉄鋼スラグ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88,375	皆増
その他*	11,557	75,847	18,778	3,760	21,550	13,973	82,059	86,812	48,642	31,902	35,915	+12.6%
合計	328,363	412,632	316,734	343,411	460,188	468,672	536,292	503,863	461,250	430,917	496,165	+15.1%

\*その他：バーク（樹木の皮の部分）、廃土砂、砕石など